

# THE Y S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2019~2020年度 No.235

## 8 月報

那須クラブ会長 主題

### 地域につなげ那須ワイズ



強調月間：CS (地域社会・隣人奉仕活動)

### 今月の聖句

行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。

マタイによる福音書 10 : 7

2019~2020年度 主題

国際会長：(IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

「より良い明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)

「Action!」

東日本区理事：(RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動!」

北東部長：鈴木 伊知郎 (宇都宮東)

「われら北東部、世界のワイズメンと共に前に進もう」

### ・ 8 月第 1 例会 (納涼例会) 小雨でも実施

日時：8月24日(土) 午前10時から午後3時

場所：とちぎYMCA 塩谷キャンプ場

司会 副会長 村田 榮

開会点鐘

会長 河野 順子

ワイズソング・ワイズ信条

一同

聖書朗読・祈禱

司会者

会長挨拶

ビジター紹介・自己紹介

本日のプログラムの説明

司会者

キャンプの体験

飯盒炊飯

まき割り

キャンプファイヤーの準備

エールマスター

営火長

ゲーム

諸報告 那須ワイズ

那須YMCA

YMCAの歌

一同

閉会挨拶・点鐘

副会長 田村 修也

会費：1,000円

出欠の連絡は8月17日(土)までに村田副会長迄

各自準備する：長袖、長ズボン、軍手(火を使うので)、  
その他必要なもの。

3頁の第2例会(役員会)記録も参照。

### クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村 修也・村田 榮

### 7月例会データ— (出席率：66.7%)

在籍者 6名

例会出席者 4名 メネット 2名 ゲスト 3名 YMC

Aスタッフ 1名

### 8月 Happy Birthday

なし

### ・ 9月第2例会(役員会)

日時：9月2日(金) 午後12時30分から

場所：ココス西那須野店

### ・ 第32回ユースボランティア・リーダーズフォーラム

日時：9月6日(金)~8日(日)

場所：東京YMCA山中湖センター

### ・ 9月第1例会(ボランティアスクール・アジア学院バザーの準備)

日時：9月27日(金) 午後6時30分から

場所：西那須野教会

## 8月巻頭言

副会長 田村修也

### 夏が来ると思い出す

とちぎYMCA塩谷キャンプ場は、設立5周年記念事業として設立されました。当時町有地であったこの土地の取得に際しては、町長との交渉等地元塩谷町在住の原田メンが大変な労を取ってくれました。そのキャンプ場が、あの3.11以来、放射線量の関係で今日まで使用出来ない状況にありました。8年が経過して放射線量の心配も薄らいできたので、1日も早く状況を回復して、野外活動の拠点としたいという熱い思いが原田メンを筆頭に那須ワイズの中で沸き上がりました。まずは現地調査をと、クズやフジなどが吊り橋を覆っているのを刈払いながらキャンプ場の入り口まで行きました。場内は篠竹等々が密生していて、とても入れるような状況ではありませんでした。そこで村田メン所有の草刈り機を数台搬入し、村田メンの指導でスタッフ共々、とりあえず広場、炊事場、集会所周辺を刈り払いました。しかし根っこまでは除去することは出来ませんでした。その後、とちぎYのスタッフによって再度刈払いが行われ、施設の全容が見えるようになりました。

那須ワイズは再びキャンプ場での例会を計画し、クルミ、梅、柿の苗木を植えることになりました。キャンプ場へ行ってみると、先に仮払いした場内は、新たな篠竹が芽生えていました。そこで、このままの状態では、以前苗木を植えた時のように、管理が行き届かないと、また篠竹等の繁茂で枯れてしまう心配があるので、徹底した整地を待って定植し、今回は集会所沿いの条件の良い所に仮植えしておくことになりました。本格的に整地するため地元の業者に現地に出向いてもらい見積りを取って、とちぎYで予算化し実施することになりました。施工当日は、排土板付きのショベルカーと補助作業員による刈払いを併用して、篠竹を根っこから除去し河川敷迄整地することが出来ました。夏の野外活動に向けて、リーダーの野外炊飯等の訓練が必要ということで、今年の8月納涼例会は、整地された塩谷キャンプ場で開催することになりました。計画の中で野外ゲームをキャンプファイヤー形式で実施したいとの要望が出たので、それに沿って準備をすることに致しました。

キャンプファイヤーの思い出は尽きません。プログラムを、順を追って作っていくと、ボーイスカウトでのキャンプ、学Y時代のキャンプ、地域子ども会のキャンプ、教育キャンプ場でのキャンプ指導、林業後継者大会、緑の少年団全国大会でのキャンプファイヤー、そして地区教会青年会での夏期修養会でのキャンプファイヤー等々です。かけがいのない友情を表すのに「同じ釜の飯を食う」という言葉がありますが、キャンプ生活を共にした者同士は生涯豊かな絆で結ばれていきます。(次頁に続く)



(前頁よりの続き) その経験から、YMCAの野外活動、特にキャンプのプログラムはなくてはならない大切な活動だと確信しています。ますます充実して行って欲しいと願うものです。今回は最後に「営火の祈り」の歌に合わせて、各自日頃の祈りや願いをカードに書いて、営火の残り火に入れるプログラムを加えました。これは栃木地区教会青年会の夏期修養会でのキャンプファイヤーで行っていたものです。足利教会から諏訪兄、四条町教会から十河兄、鹿沼教会から鱒淵兄、塩谷一粒教会の原田兄、そして西那須野教会から私と、その後宇都宮Y、ワイズのチャーターメンバーとなっていく先輩と共に営火を囲んだ思い出が、今も鮮明に思い出すからです。夏が来るたびに、あの懐かしい日々の思い出がよみがえってきます。

## 7月(キックオフ・総会)例会

書記 藤生 強

日時: 2019年7月25日(木)午後6時30分～  
午後8時30分

場所: 日本キリスト教団 西那須野教会

参加者: 河野、田村、藤生、村田の各メン。田村、村田の各メネット。ゲスト・ユースリーダー3名(室橋岳人(むろさん) 薄井沙也加(ラミ) 西勇祐(ケンイチ))、YMCAスタッフ1名(平山主事)。合計10名

7月例会は、2019-2020年度キックオフ例会とし、昨年度の振り返りと今年度の確認などを行いました。

始めに、2018-2019年度報告について、河野会長より活動報告がありました。恒例の「植樹」、メンバー以外の参加者も多数招いて学んだ「アドバンス・ケア・プランニング」、ボランティアリーダーも多数参加した「茶道」、など例会出席者と一緒に振り返りました。次に村田ワイズより会計報告がありました。例年通りの決算だったこと、ボランティアリーダーへのサポートをタイミングが合わず少ししか行えなかったこと、など報告がありました。

2019-2020年度計画について、活動については河野会長より説明があり、ボランティアリーダーが参加出来る例会を多く行うこと、塩谷キャンプ場サポートを行っていくこと、などが挙げられました。予算については村田ワイズより、ボランティアリーダーが研修等へ行くための補助や塩谷キャンプ場の整備費用を予算として計画している説明がありました。

報告及び計画とも承認され、新年度がスタートしました。

キックオフ例会にはボランティアリーダー3名も参加しており、ワイズについてリーダーをサポートしているグループがあることへの感謝とその期待に応えるべく活動していくことを約束してくれました。次世代を担うボランティアリーダーが一人でも多くこの那須の地で育ってくれることを願っています。

## 8月第2例会(役員会)報告

日時: 8月2日(金)午後12時30分～

場所: ココス西那須野乃木店

出席者: 河野会長、田村副会長、村田副会長、平山YMCAスタッフ、田村メネット

協議事項

### 1. 8月例会の件

8月24日(土)に塩谷キャンプ場にて、ユースリーダーを巻き込んだ納涼例会を行う(少々の雨でも実施)。参加締め切り8月17日。体験プログラムを実施(飯盒炊飯、巻き割り、キャンプファイヤー・ゲーム)。準備するもの: ワイズ(お米は田村メン。玉ねぎ、ジャガイモ、ニンジン、薪、大ナタは村田。肉、カレールー、調味料は購入)。YMCA(鍋、飯盒、水の調達、トイレ用水のバケツ、ウエス、針金、その他必要の物)。ゲームは田村メン、YMCAスタッフ。

### 2. 2019~2020年度年間計画の件

2018~2019年度計画にプラスするものとしては、ユースリーダーの研修、ボランティアスクールの再開、御園老人ホームへの慰問、塩谷キャンプ場に活用等を盛り込む。

### 3. 9月第2例会(役員会) 9月6日(金)午後12時30分よりココスで食事をとりながら行う。

### 4. 9月第1例会は、9月27日(金)午後6時30分より実施。例会の内容は、来年度実施予定のボランティアスクールの計画、アジア学院のバザーの準備について。

5. 2022年度までの那須クラブの会員増強について話し合った。確実な数字として2名の増強を報告する。

### 6. その他

・SNSの活用について相談。会員増強にどのように活用できるのか。ホームページと違った活用方法があるはず。YMCAとの連携は大切である。担当者をどうするのかも大切である。

・10月例会は、アジア学院の収穫感謝の日とする。

10月12日・13日の両日にバザーを開催する。

## 第28回アジア太平洋地域大会に参加して

会長 河野順子

日程：2019年7月19日～7月21日

場所：仙台国際センター（宮城県仙台市）

参加人数：713名+AYC28名

表題のと通りの大会に初めて参加した。北東部会としては、一年前から（当事者達は、数年前から準備）参加準備の情報を頂いていた。



私は、このグローバル（であろう）な開会式を一目見たくて参加した。仙台国際センターは、会議棟と展示棟で構成され、併せて6000人利用できるという大規模なコンベンションセンターである。会議棟は1000人利用可能というホールで、開会式から講演までが行われた。すでにホールには、各国のメン・メネットが賑わっていたが、開会式に先だって後ろの扉から各国の代表者がバナーを持って、舞台に並べられていく姿は感動的であった。開会式、国際会長就任式まで進められ、2019～2020国際会長は、ジェニファー・ジョーンズ女史である。「より良い明日のために今日を築く」のことは、キリスト教の価値観によって表現されていると。意味深い言葉である

公開講演会は、宮城県知事村井嘉浩氏による「東日本大震災からの復興と防災への取り組み」であった。復旧でなく復興として、仙台空港を民間に移譲した。その結果、台湾と仙台の直行便を倍に増やしたとか。そのためか、このホールには台湾のメンやウイメンが多く参加されていた。このように見える化できていれば納得できる。また、漁業の権利も民営化。そして、興味深かったのは、東北地域の医師不足を解消するために、特区を利用して、薬科大学に医学部を造設し、地域住民の不安を軽減したことである。行政として駆使できることをしっかりされていることに嬉しさと心強さを感じた。

18：30から晩餐会が展示棟で行われた。わたしのテーブルは、那須クラブ参加者と台湾高雄クラ

ブの張さんとその夫、林さん、潘さんと和歌山ワイズのメンバーだった。張さん曰く、「新しいクラブでメンバーが少ない」と。何人なのか聞いてみると、15人。メンバーが少ないと聞いて、私たちのクラブだけでないと安堵していたが、我がクラブの倍もいるのではないかと。いやいや、我がクラブが少なすぎるのだと反省と意欲が沸き立った一瞬だった。英語が弱いのに、開会式から晩餐会まで英語であったためか、ホテルに着いたらドッと疲れが出た半日だった。

二日目、被災地バスツアーには、女川、石巻、南三陸を選択した。大震災が起こる前から、数回立ち寄っている場所であり、大川小学校の傍の土手も数回通っていてなつかしく、その後、被災した小学校もみているので、その後をさらに見たかった。南三陸の大きなホテルには、被災前に泊まった記憶があり、その時も台風の影響でホテル前の海の牡蠣が危機にさらされていたことを思い出した。被災直後では、変わり果てた街並みや学校、そして瓦礫の山には涙でなく恐怖と半ば絶望を感じた。今回、実際被災した語り部さんに当時のこと、その後の一人ひとりの必死（夢中）での努力、復興への結束など、涙、涙で聞き入った。各国の多くの方からの支援があったけれど、メディアからの情報ももらっていたが、自分としては、本気で支援していただろうかと深く恥じ、反省した。今でも、まだまだ苦しんでいる被災者が多いことを肝に銘じていなければならないと強く思った。



風化なんてできないほど、家族の形が壊れ、人生が狂い、ふるさとを失った方々にもっともっと自分

は寄り添わねばなら

ないと今までよりも更に感じた。このような中で、石巻ワイズメンズクラブが生まれ、元気に活動されていることに感動さえ覚えた。

アジア太平洋地域大会をこのような形で開催された企画担当の皆さんに感謝する。意義深い大会に参加させていただきありがとうございます。

那須クラブよりは、河野、村田、村田メネットの3名が参加

## 旧西那須野（那須西原）の緑と水（第77回）

田村修也

明治18年6月24日には、水路工事の東原の部分

は竣工いたしましたので、試験のため、通水してみました。印南さんも矢板さんもこの試験に立ち会いました。水流は滔々と流れて、まだ排水設備が無いので、たちまち原野にあふれ出て、あたり一面沼か湖水のようになりました。このような状況を見て、これで先ず水が来ることは請け合いとなったので、関係者一同大満足でした。

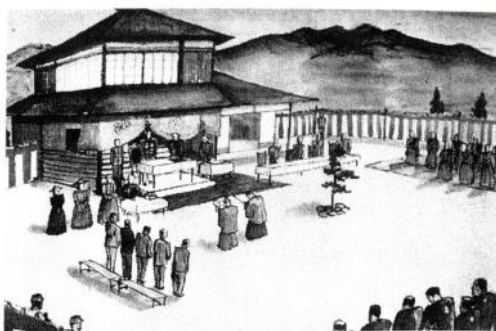


那須疎水の完成を喜んで、小舟で疎水をくぐる人たち

この頃になって、印南文作さんは、持病の胃病のために健康が優れないので、塩原温泉に数日間湯治をしたり、医薬を用いたりしておりました。しかしながら、大水路開鑿の工事中なので、政府や、県庁から、度々要人が来訪したり、那須開墾社の用務も複雑で多岐に亘っていたので、病を押しても活動しなければなりませんでした。けれども、病状がますます悪化して、6月29日から7月末まで約1か月間、宇都宮病院に入院することになりました。病院での療養で病状も少し良くなってきたので、退院して出社することが出来るようになりましたが、あまり活動することはまだ無理でした。

この間、水路工事はどんどん進捗して、同年9月15日に三島肇耕社において、通水式が挙行されることに決まりました。

明治18年9月15日、那須野が原開拓関係者と入植者が待ちに待った、那須疎水本幹の開鑿工事の偉業が完成したので、この日を記念して、三島肇耕社の庭内（現在の那須野が原ミュージアムの所）で通水式が挙行されました。



三島肇耕社での通水式

主催者は内務卿山県有朋、特に北白川宮能久親王の臨席を仰ぎ、土木局長の三島通庸、疎水課長の南一郎平、栃木県令の榊山資雄、岡山県令の千坂高雅はじめ政府並びに栃木県庁の関係官吏、その他この地方の有志が多数列席して、盛大に執行されました。

勿論、印南文作さん、矢板武さんも列席していま

た。通水式の前日の9月14日早朝に、北白川親王殿下・三島土木局長・榊山栃木県令等20数名は、宿泊先の塩原から人力車に乗って西岩崎に向かい、疎水取入口を御覧になり、水路の検査を行いました。

それから、一行は準備されていた5艘の舟に分かれて乗り、通水したばかりの那須疎水本幹を終点まで下って行き、舟から上がって三島開墾肇耕社庭内での通水式典に臨まれました。舟でくだるという趣向は、先的那須野が原飲用水路開通式の際にも行われていますが、印南文作さんと矢板武さんが望んでいた運河構想に思いを重ねてみると、胸に迫るものがあります。

この通水式で主宰者である山県有朋内務卿は次のような祝辞を朗読しています。山県内務卿祝辞「那須野力原ノ地、土壤豊腹、当ニ墾シテ良田トナスヘシ。而シテ、未タ灌漑ノ利ヲ得サルヲ憾ム。因テ囊ニ疎水ノエヲ興シ、今已ニ幹線ノ開鑿ヲ了ス。源泉混々涸渴ノ憂イナク流勢淙々。阻滯ノ状ヲ見ス。初計画ノ謬ラサルヲ知ルヘシ。即チ全部ヲ竣工スルノ日ニ至リ、十里ノ荒原変シテ稲梁万頃ノ美観ヲ呈スルニ、蓋シ将ニ遠キニ在ラサントス。茲ニ通水式ヲ行ヒ、二品一等能久親王殿下ノ臨場ヲ辱クス。豈欣ヒテ之ヲ祝セサルヲ得ンヤ。

明治18年9月15日 内務卿従三位勲一等伯爵山県有朋

(以下次号へ)

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

### 2018年度のご報告と展望

「さあ、私たちが子どもたちとともに生きようではないか！」フレーベル

自然災害や8年半前の「東日本大震災」で被災された方々が、希望のうちに一日も早くいつもの生活を取り戻せますように、被災地復興の為に働かれています。西那須野幼稚園は、東京電力の原発事故後、除染前の外遊びの中止、園庭や畑の土の移染、建物の除染、専門家による学習会を行ったり、給食用逆浸透膜浄水機を設置したりしました。今も毎保育日、園庭中央の放射線量測定、給食の毎食一食分の丸ごと検査(アジア学院ベクレルセンターで)等、可能なことは子ども達の為に実施しております。

放射能汚染による幼稚園附属山林観察園と野外活動センターは市の除染対象外で引き続き使用できない事をお詫びします。野外活動センターのフィール

ド・アクティビティーハウスにつきましては、ログハウスのように移築できませんので12月に解体しました。2018年度の保護者の皆様のご理解・ご協力に感謝申し上げます。また、スタッフ一同が愛をもって、子どもたちの幸せのために努力できましたことを、感謝をもって、ご報告します。

ところで、本園は、西那須野教会附属「しらゆり幼稚園」から認可幼稚園、西那須野幼稚園として新たに出発しました。そして、この地域教育の一端を担う働きをさせていただくようになり、今年で62年目を迎えることができました。隣の「こひつじ保育園」との幼保連携型の認定こども園「西那須野幼稚園」として5年間実施して、新幼保連携型認定こども園に移行予定でした。新制度では担任以外の教諭は4人までしか認められず、共働き保護者に代表される2号認定のしょうがいのある子どもの補助金が国から市町に移り、市町からはその分は出ないので、県の試算で減収7300万円となることになりました。子ども達の最善の利益が担保出来ないばかりか破綻のおそれもあり、認定を返上しました。現在、幼保の子ども達は合同保育を実施しています。今年度は教諭の処遇改善加算を考えて幼稚園型認定こども園になり、収入は大幅に減じる予定です。制度は変わっても本園を信頼して毎日通園させて下さっている保護者の皆様に感謝し、信頼に応えていく決意は変わりません。

また、「児童発達支援センターシャローム」を栃木県の民間施設として初めて設立し3年目を迎え、赤ちゃんから小学6年生までの全ての子どもたちが共に育ち合う環境が整いました。

さて、冒頭の言葉は、幼稚園(“Kindergarten”子どもの庭)の名付け親であるフレーベルのことばです。彼は幼稚園での遊びと作業を大切にし、人間の未来の生活は幼児期がベースとしました。これからは、VUCA(ブーカ)の時代といわれています。Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとったものです。子ども達は正解の無い時代をその時その時の適解を求めて善く生きることが求められます。学力だけでなく、非認知能力と言われる折れない心(レジリエンス)、自己統制力(感情・意思・行動)、価値観の違う人たちと一緒にやり遂げる力が大切といわれています。地域社会での人との関わりが希薄になった今、この基礎を培う土台としての遊びが、幼児期の保育に求められてきています。本園も子ども達のよりよい未来を考えて、行事の見直しも含め、本園の教育要領の内容を改訂していきます。 最後

に、地域の皆様のご協力についてご報告します。

本園は、子ども達のより良い自己形成のために、地域や他団体の方からも沢山のご協力をいただいております(コミュニティー・インクルージョン)。中学生の職業体験、五軒町区の皆様とのクリスマス会。また、更生保護女性の会の皆様には「地域親」として子ども達との昼食会へのご協力をいただいてから14年になります。YMCAとの協力による幼児から小学生までが実体験や遊びを通して育ち合うサタデークラブ(毎週土曜日に実施)は、順調に18年目を迎えました。また、小学1~6年生を対象とした放課後学童クラブが13年目に入りました。

#### ○視察・交流関係(敬称・個人名略)

教育実習生、槻沢小・東小・西那須野中・三島中・那須拓陽高校・黒羽高校・那須高校の生徒、アジア学院学生、栃木県障害福祉課、学校法人子どもの森(東京)、那須塩原市議会福祉教育常任委員会

(西那須野学園報2019原稿加筆修正)

### 学校法人アジア学院だより

学校法人アジア学院

校長 荒川 朋子

#### 核の悲劇を繰り返さないために

ヒロシマ、ナガサキの記憶から、8月は平和月間と言われることが多い。ヒロシマ、ナガサキは言うまでもなく原子爆弾の世界最悪の悲劇であるが、同じ核エネルギーの技術を使っているにも関わらず、原発とは別々に捉えられている。フクシマをわずか9年前に経験したにも関わらず、原発は「平和利用」という隠れ蓑をかぶって、その危険性、特にその使用と事故のもたらす「倫理的」な考察が十分にされないまま事が進んでいるのがこの国の現実である。7月の末に参加したあるキリスト者の修養会で、改めてフクシマ(このカタカナ表記にも様々な意見がある)の問題の重大さを重い知らせれた。震災以来毎月福島に通って医療相談を行う北海道の精神科医は、福島県浪江町の「希望の牧場」でボランティアをしていた時に、「無垢な目をして無心に餌(汚染した牧草や野菜加工などで出る野菜くず)を求め、人間はみんな有罪だと思いました。なんということを私たちはしてしまったのだろうかと思いました。」と語った。避難勧告の出ている地域のこの牧場で、牛とは餌がなくなればただ死ぬだけの運命の、残された家畜たち、つまりこの事故で一番弱いものの象徴として捉えられている。私の

根底にもこの医師と似た深い反省の念がある。自分自身の原発、広く言えば、核兵器、原爆と各施設など、核に関するものすべてに対する関心の無さ、不作為の罪。この事故による今なお続く被害の実態を知れば知るほど、自分の罪深さに心が締め付けられる思いだ。アジア学院でベクレルセンターの運営を継続し、福島の問題に関心を持ち続けようと努力しているのは、この深い罪に対するほんのちっぽけな償いである。

大切なことは、今苦しんでいる人々に対する救済と、未来に同じ過ちを繰り返さないことだ。この両方が同等に大切だと思うが、特に後者に関して人間はとても弱いことを歴史は証明している。しかしだからといって言い訳は通用しない。どうしたら私たちは同じ過ちを繰り返さないことができるのか。

日本キリスト教団は2014年3月に仙台で「東日本大震災国際会議」というものを開いた。その前文にはこうある。

「世界の各国から集まったわたしたちは、以下の日本のキリスト者たちの罪の告白に耳を傾けました。わたしたちも経済の領域において、また、環境の領域において、罪深い体制の中に組み込まれ、良いものとして神に創造された世界と、共に生きるべき世界の人々の現在と将来の命を脅かしている共犯者であることを省み、この告白に心を合わせます。」そして、傲慢、貪欲、偶像礼拝、隠ぺい、怠惰、無責任、責任転嫁という7つの罪が挙げられている。私は、日本は原爆の唯一の被爆国であるからこそ、また福島事故を経験したからこそ、核の悲劇をより一層深く覚え、その意味を世界に問い続けなければならないと思っている。そしてその時に、己の罪を自覚することは欠かせないことであるはずなのに、それはどこかに忘れ去られている。罪の自覚のないところに真の成長、変革はない。核の悲劇を繰り返さないためには、私たち自身の中に罪の自覚を起こさせるように神様に祈る、それが今、そしてこれからも最も大切なことのように思う。

### YMCAだより

【とちぎYMCAサマープログラムがスタートしました！！】



夏が始まりました！夏といえばYMCAのサマープログラムです！今年の夏はYMCAでお馴染みのキャンプに加え、

デイキャンプスクールや水泳教室など



7月下旬から、8月末まで様々なプログラムが展開されます。また、那須YMCAのボランティアリーダーが今年の夏も子どもたちのためにプログラムの準備をがんばっています！今年の夏もさらに暑い、YMCAのプログラムになりそうです！

### 【とちぎYMCA・那須YMCAの8月の予定】

- ・8/31(土) サタデークラブ@なががわ水遊園(水遊び)
- ・那須YMCAの英会話、西那須野幼稚園の運動遊びは8/26(月)の週からスタートします。
- ・夏休み期間中、サマープログラムとしてキャンプやスクール、短期水泳など計13のプログラムが実施されます。

### ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言



- ①室橋岳人 むろさん
- ②国際医療福祉大学 薬学部 薬学科 1年
- ③茨城県 水戸市
- ④元々ボランティア活動に興味があり、友達に那須YMCAと一緒に入ろうと誘われたのがきっかけです。

⑤どの活動も思い出深いのですが、その中でも特に印象に残ったのが初めて参加したYキッズです。その時は私も初めての活動で緊張していたのですが、子供たちから積極的に話しかけてくれ仲良くなりました。そして、活動の終わりには子供たちが帰るときに、むろさんに全力で手を振ってくれたことがとても嬉しかったです。

⑥病院薬剤師か薬局の薬剤師になります！

⑦スタッフの方々も他のリーダーの皆さんも優しくとても楽しく活動しています。ありがとうございます！！

### 会計よりお願い

・新年度の会費の納入をお願いします。東日本区に対する協力の在り方も検討したいものです。